

クラスルームアクティビティーとしての英語によるホームページ作成の試み：発信型の英語教育を目指す一活動の実践報告（ケーススタディ）^{注1)}

中山 晃

基礎教育課程

The Web Page Design Project: A classroom activity

NAKAYAMA Akira

Division of Liberal Art and Science

(Received November 12, 2002 ; Accepted January 18, 2003)

要 旨

In this paper, I introduce a practical English classroom activity called the "Web Page Design Project" which is used with college students majoring in Graphic Design. The students engaged in this project created their own Home Page (HP) on the web and presented their work and diaries accompanied by an English translation. During the semester, the students were requested to implement their English on the Internet and receive feedback from viewers.

1. はじめに

近年、授業にオンラインコンピュータを導入してゆくことが、教育現場においてより標準的になってきた。特に、昨今、インターネットは無限のリサーチリソースとしての役割だけではなく、実践的な教育環境においてコミュニケーションの媒体としての役割をも果たしている。授業中にオンラインのコンピュータを利用することによって、学生は授業中の課題と関連するいかなる情報にもアクセスすることができ、また世界中の国々の人々と意見や考えを交換することが可能となっている。言語学習の場合は、教師と学生の両者がインターネットを使い、授業中にコミュニケーションの道具として目標言語を利用する機会が得られるようになった。このような授業方法の変化は必ずしもテキスト解釈を中心とした訳読式の授業スタイルからの決別を意味するわけではないが、コミュニケーションなクラスを求める学生の意欲を高めるという意味では、歓迎される変化と言える。

本稿では、このような時代の変化に対応する活動の一つとして試みた英語の授業中における HP 作成の利点と実践上の問題点、導入方法と留意すべき手順、そして学生からの授業に対する評価について報告する。

2. ホームページ作成プロジェクトとは

本学芸術学部デザイン科に在籍する学生に対して、2000年度から2001年度の2年間に渡り、「英語 IIA」の授業時間内に英語による HP 作成^{注2)}を試みた。各自の HP には、グラフィック作品と英語による作品解説や英語で書いた日記（Appendix A を参照）を掲載した。当該学期中、学生は HP 作成以外にも、インターネット英語や基本的な英語表現を学ぶことに加え、各自の HP サイトに訪れた人からフィードバックを得て、英語で返事をするなどが求められた。学生の人数や手順等の詳細は後述する。

3. 対象学生

今回参加した学生は、本学芸術学部デザイン科3年及び4年次生で、英語 IIA を再履修している学生だった。2000年度の当該科目履修者は12名で、2001年度の履修者は4名で、合計16名がこのプロジェクトに参加した。両年度の学生は HP の作成に熟知していたので、HP を作成するのに必要な HTML などの言語を教える手間が省くことが出来た。

4. 手順と環境

オンラインコンピュータを毎時間利用することが出来なかったため、通常はテキスト中心の授業を行い、英語

による HP 作成はアクティビティーの一環として行った。通常授業は、インターネット英語やネット略語 (net abbreviations)、ネチケツト (netiquette)、その他インターネットに関する様々なトピックを扱った。オンラインコンピュータが利用可能な場合は各自 HP を更新し、別に授業課題をすすめた。授業課題の例として、学生はコンピュータグラフィックスに関する英語のウェブサイトを訪れ、HP に書かれている内容を和訳し提出することが求められた。また、オンラインコンピュータの利用の有無にかかわらず、授業終了15分前に日記を英語で書くことを求めた。自宅にオンラインのコンピュータを持っている学生は授業後自宅から日記を更新し、またコンピュータを所有していない学生は、学内のオンラインコンピュータから、日記をアップロード (upload) した。学生が書いた日記に対する教師のフィードバックは、電子メールおよびインターネット上の掲示板 (BBS: Bulletin Board System) を利用して、講義日中に送信するようにした。

5. 問題点

英語教育において英語の実践的かつ実務的な側面を強調する際、学習環境や設備、あるいは教員の資質、学生の習熟度等、様々な問題に対処しなくてはならない。ここでは、英語による HP 作成が教室内で実践可能となるために解決してゆかなければならない問題点について、特に今回の試みにおいて見出された問題点について議論する。

5.1 コンピュータメディアリテラシー

学生の個人差として、HP 作成に用いられる HTML についての知識の有無が、本アクティビティーの成功の鍵を握っていた。一般向けに HP 作成支援ツール及びソフトが市販されているが、HP 作成技術はコンピュータ言語についての専門的で詳細な知識を要することは事実であり、こうした知識が学生側にない場合は英語による HP 作成は困難な可能性がある。例えば、情報技術を専攻とする学科やコンピュータを利用する学科などの英語の授業では実践可能かもしれないが、コンピュータ等の設備が不十分であり、教師や学生に HP 作成に必要な知識が期待できない場合は、実際に行うことができない可能性が多分にあるといえる。

5.2 クラスサイズ

一般的に、授業の運営の容易さという観点から考えると、少人数制が好まれることは教育において繰り返し強調されていることであろう。同様なことが言語教育についても当てはまる。今回の実践において、学生の全員が HP 作成に必要な知識を持っていたわけではないが、学生の人数の合計が20人以下だったので、インターネット

英語のみならず、HP 作成の際に必要な事項についても個別に指導することができた。クラスの人数が多い場合には、個別指導は困難になるであろうし、一人にひとつの HP を作成することは過度な要求となりえる可能性がある (ただし、グループワークなどを行うことでこの種のアクティビティー実践することは可能だろう)。

5.3 サイト訪問者からのフィードバック

学生の HP に訪れた人からのフィードバックに関して、少なくとも以下の2点について触れる必要がある。第一に訪問者の数で、第二に学生のプライバシーについてである。まず、なぜ訪問者の数が重要なのかというと、サイト訪問者の数により学生が得られるフィードバックの数の大小が決定し、また英語でコミュニケーションできる機会も決定するからである。本実践では、サーチエンジン等に登録することで訪問者の数をある程度増やすことはできたが、必ずしもサイト訪問者がコメントを残してくれるわけではないので、得られるフィードバックの数には限界があった。サイト訪問者からのフィードバックは、具体的に HP のデザインに関する事柄や HP 上の英語の表現に関するものであった。全体を通してみると、少ないながらもサイト全般に関する質問等に電子メールで返信する際の英語表現などを授業中に学び、実際に英語を利用してコミュニケーションすることが体験できたことは有意義だったと考えられる。次に、学生のプライバシーに関してだが、個人の電子メールアドレスが一般にネット上に公開されてしまうという点に気をつけなければならない。インターネットの普及とともに、電子メールの利用率も高まり、商用に限らずジャンクメールなどの迷惑メールが多数配信されるようになった。授業中にこうした電子メールを受け取ることもあったのだが、情報を発信する側として避けられないことであったので、無視することで対応した。

5.4 学生からの評価

当該学期の終了時に、今回のアクティビティーについての感想を聞く質問紙を実施した。2000年度から2001年度の2年間分の結果を以下に示す。また学生への質問項目は以下の通りである。

- ① 英作文力の必要性を感じましたか?
- ② 英語で HP を作成することは良いことだと思えたか?
- ③ 英語で HP を作成することについてどのように考えていますか?

6. 結果

- ① 「英作文力の必要性を感じましたか?」という質問

に対して、参加した学生16人中12人が「はい」と回答した。インターネット英語を学んでさらに電子メールや実際に英語でサイトを作る過程を通し、現代社会において、英語での作文力の必要性を実感したのではないだろうか。

- ②「英語でHPを作成することは良いことだと思いますか？」という質問に対しては、11人の学生が「はい」と回答した（5人は「いいえ」と回答した）。情報発信を英語で行うことで、インターネットの利点のひとつである世界中のどこからでもアクセスできるという特徴が活用できるというのが主な理由の一つであった。他方、「いいえ」と回答した学生の理由からは、「確かに書く英語の重要性も認めるが話す英語に今は興味があるから」や「サイト訪問者からのフィードバックがすくないから」という点が挙げられた。
- ③「英語でHPを作成することについてどのように考えていますか？」に対する回答例は次の通りであった。

学生A：「HP作成自体にも興味があったし、英語でHPを作成したいと考えていた。」

学生B：「典型的な英語の授業の課題と異なり、HP作成という自分の興味と直接関連していたので、やる気がでた。」

概して、これらの回答例と同様に肯定的な回答が得られたが、このような学生の授業に対する肯定的な態度は、アクティビティーを実施する際の3つの手順に基づいているかもしれない。つまり、「話し合い (negotiation)」、「継続 (continuation)」、「意味のある活動 (a meaningful task)」という手順を踏むことで活動自体をスムーズにすすめることができたと考えられる (van Raay, 1998)¹⁾。これは実証的研究に裏づけられた手順ではないが、実際のクラス運営において経験的にも理解できる (Nakayama, 2001)²⁾ ことであり、今回の試みにおいてもこの手順を踏むことによってある程度の成果を得ることができた。すなわち、授業毎に学生と話し合い、各々の課題の進捗を確認し、教師と学生がHPのデザインや英語表現について質疑応答を繰り返すことで、お互いにどのような目標を持って当該の課題をすすめているのか一定の見通しが立てられていたと考えられる。また、このプロジェクトは継続的に行われたアクティビティーであり、授業毎にオンラインで課題の出来具合が即時に確認できただけでなく、翌週の授業への目的やその目的への意欲を維持できた。さらに、このHPデザインは学生達の専攻であるグラフィックデザインと直接結びついており、そういう意味で、学生たちにとって意味のある活動と

してとらえられた可能性は大いにある。

7. 結 語

今回の試みでは、学生及び教師が互いにHPデザインに熟知し、また英語の課題として目標を共有することができた。このことは、一方で、このプロジェクトを導入する限界を示すことを意味している。すなわち、HPデザインの専門的知識を必要とするという一点に他ならない。教室活動の一環としてこのプロジェクトの実践可能性は、学生と教師のコンピュータメディアリテラシーにかかっている。いかなる教室環境においても実践可能な活動というのはありえないかも知れないが、それぞれの教育環境と学生のニーズを把握し、かつ学生と教師が互いに折り合いをつけてゆくことが大切であり、新たに教室内でのアクティビティーを開発してゆくための条件となるであろう。

脚注

注1) 本稿は、2001年11月22～25日に行われたJALT2001国際会議 (於 北九州国際会議場) でポスター発表された原稿をまとめたものである。

注2) 実際の学生のHPは以下を参照されたい。
<http://www.geocities.co.jp/Playtown-Yoyo/4247>

参考文献

- 1) Van, Raay, P. The motivation approach. *The Language Teacher*, 22, pp. 17-18, 1998.
- 2) Nakayama, A. The children's book project: A classroom activity. *The Proceedings of the 26th Annual International Conference of the Japan Association for Language Teaching*, pp. 274-278, CD-ROM, 2001.

謝 辞

今回の授業実践に際し様々な方の協力をいただきました。教室の設備面から論文に対するご指導等、本稿に関わった皆様にあらためて感謝致します。また、幸後恵美さん (デザイン学科2001年度卒業) には、HP内の日記の掲載を快諾していただいたことに心からお礼を申し上げます。

Appendix A

学生による英語の日記の一例

Diary
===MAY-JULY===
2001/05/18/Fri
It went to the school after a long time. Although I had been late for a while, there were little people and I was surprised. I eats lunch with my friend and I I had a happy time.

2001/05/25/Fri

I am also late today. Since outside is hot, I do not want to come out outside recently. Doesn't it become cool early? I am tired only from coming out outside....

2001/07/06/2001

I caught cold and quiet at home today. It was the cause,, Since I drank only icecoffee and other foods ate nothing when a season became in summer. I don't like summer very very very...much! I wish becoming cool early!!!!

2001/07/13/2001

Today was the final day of the first half class. In spite of last day, there was little number as usual. Is it resumption from September? It was tired with labor.